

# 寧夏南部山区の生態回復と野生植物資源の持続的可能な利用との関係についての考察

李吉寧<sup>1</sup> 張前進<sup>2</sup>

1. 寧夏大学西北退化生態システム再建省・部共同建設教育部重点実験室

2. 寧夏大学西部発展研究センター

キーワード；生態建て直し 自生植物資源 範式 持続可能な利用

主旨；

範式とは、一つの科学と哲学集団が共に認識し、運用する世界観におけるシステム (Belief system) 及び系列的な概念、方法、原理によって組織された体系である。全体的な現代科学から言えば、範式は唯物的 (Materialism)、因果論 (Causality)、簡化論 (Reductionism) 及び整体論 (Holism) などを含んでいる。全ての生態学の分野に及ぶ範式には、バランス範式 (Equilibrium Paradigm)、アンバランス範式 (Non-equilibrium Paradigm)、多バランス範式 (Multiple-equilibrium Paradigm) などがある。

寧夏南部山区にある生態系は、当地域の人々が生存、発展する基礎である。更に、生態範式の移り変わりは、当地域の環境変化と人類社会の発展の歴史に伴って、内包と実質状では絶えず発展と改善が行われる。本報告では、寧夏南部山区の生態建て直しと自生植物資源の持続的利用関係を考えた上で、哲学理論面の最新の進展を研究した。また、当地域の自生植物資源の持続的利用ができるかどうか、現有の生態建て直しのモードの影響への分析を行った。併せて、当地域の生態系等のバランスとアンバランス、同質性と異質性、等級などの生態学の範式に関する問題についても研究した。西部地域の生態建て直しと希少で次第になくなりつつある植物及び特別な植物資源の持続的利用は、“自然 社会 経済”の総合体の生態効果の運営メカニズムに理論的根拠を提供する。